

# 保健体育科授業における男女共修について

—異性に対する価値観の視点から—

松江大樹（鳴門教育大学）

## 1. 目的

近年、LGBT+など性役割に対する多角的な考えが社会課題となっている中、学校体育における共修授業は子どもたちにどのような効果をもたらしているのか。異性に対する価値観の視点から、その必要性について検証することを目的とした。

## 2. 研究方法

1) 対象者は、N 大学附属中学校の生徒 434 名。全国の大学 9 校、男性 608 名（年齢 Ave 19.5±2.07）、女性 499 名（年齢 Ave 18.9±1.15）の計 1107 名とした。

2) 調査方法は、保健体育科授業における男女共修についての実態や意識調査を質問紙法によって実施した。またアンケート内容には、M・H・F scale（伊藤，1978）の尺度を用いて、回答者の性についての価値観も同時に測定した。

3) 分析方法は、Microsoft Excel 2013 にアンケート入力表を作成し、一元配置分散分析により統計処理を行った。

## 3. 結果と考察

### 1) 生徒の共修意識と M・H・F scale 尺度の比較

図 1 は、横軸を「男女共修で体育の授業をしたいか」の質問に対しての 5 段階評価に、縦軸を尺度得点の平均で示し、比較したグラフである。女子の男性性では、共修授業をしたと思うほど、男性性得点が高いことから、共修意識のある女子は、男性性に対する価値意識が高いと推察される。また、男子の男性性については、共修意識がある男子において、男性性に対し二極性を示した。このことから、女子は男女共修授業について、男性優位性を感じているのに対し、男子はそれをあまり感じていないことが推察される。

### 2) 共修実態と M・H・F scale 尺度の比較

図 2 は、横軸を実際の体育授業の共修実態に、縦軸に尺度得点を示し、比較したグラフである。別修において、男性は中学時に女性性得点が低く、女性は高校時に男性性得点が低いことから、別修授業では、性に対する価値観の理解が進まないことが推察された。

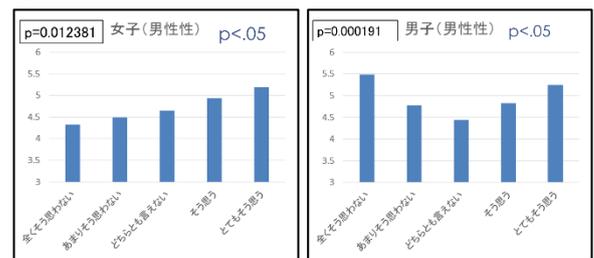


図 1 共修意識と男女の男性性得点の比較

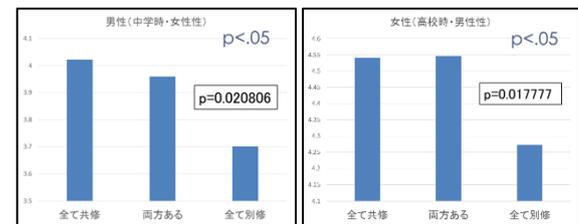


図 2 共修実態と男女の異性性得点の比較

## 4. 結論

共修授業は別修授業よりも、性の価値理解が高いことから、学校体育における共修授業は、異性の価値観を理解する上で意味あるものといえる。

また、共修授業を進めていく中で、異性への価値観の理解にも、発達段階によってそれぞれ違いがあることが考えられる。

## 5. 主な参考文献

- 1) 北田豊治「体育科教育における男女共習型授業に関する研究」『愛知学院大学教養部紀要』第 53 巻 1 号（2006）
- 2) 山西哲也「男女共習体育授業の実現の可能性と問題」『中国四国教育学会 教育研究ジャーナル』第 6 号（2010），pp61-68